

**製品名: RFC1 ウサギポリクローナル抗体****カタログ番号: APRab17048**

研究使用のみ

**概要**

説明	ウサギポリクローナル抗体
宿主	うさぎ
応用	WB,IHC,ELISA
反応性	ヒト、マウス、ラット
標識	非共役
修飾	未修正
アイソタイプ	IgG
クローン性	ポリクローナル
形態	液体
濃度	1mg/ml
保存	アリコートし、-20°Cで保存してください（12 ヶ月有効）。凍結/融解サイクルを避けてください。
輸送	氷袋
バッファー	50% グリセロール、0.5% 保護タンパク質、0.02% 新タイプ防腐剤 N を含む PBS 液。
精製	アフィニティー精製

**応用**

希釈倍率	WB 1:500-1:2000,IHC 1:50-1:300,ELISA 1:2000-1:20000
分子量	128kDa

**抗原情報**

遺伝子名	RFC1
別名	RFC1; RFC140; Replication factor C subunit 1; Activator 1 140 kDa subunit; A1 140 kDa subunit; Activator 1 large subunit; Activator 1 subunit 1;DNA-binding protein PO-GA; Replication factor C 140 kDa subunit; RF-C 140 kDa subunit; RFC140; Replication factor C large subunit
遺伝子 ID	5981.0
SwissProt ID	P35251
免疫原	ヒト RFC1 の内部領域から得られた合成ペプチド。

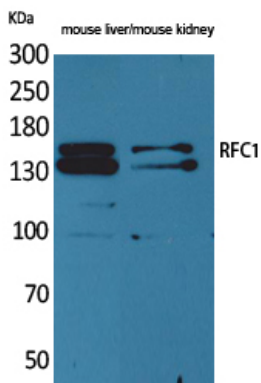
## 背景

この遺伝子は、5つのサブユニットからなる DNA ポリメラーゼ補助タンパク質である複製因子 C の大サブユニットをコードします。複製因子 C は、真核生物の DNA 複製および修復に必要な DNA 依存性 ATPase です。大サブユニットは DNA ポリメラーゼの活性化因子として作用し、プライマーの 3'末端に結合して両鎖の協調合成を促進します。また、テロメアの安定性にも関与している可能性があります。この遺伝子には、異なるアイソフォームをコードする選択的スプライシングを受けた転写バリエーションが知られています。[RefSeq 提供、2011 年 3 月]、機能: PCNA の C 末端と相互作用します。5'リン酸残基は、N 末端 DNA 結合ドメインが二本鎖 DNA に結合するために必要であり、複製および / または修復中のプライマー-テンプレート以外の DNA 構造の認識に関与していることを示唆している。機能: DNA ポリメラーゼ  $\delta$  および  $\epsilon$  によるプライミングされた DNA テンプレートの伸長には、補助タンパク質 PCNA およびアクチベーター 1 の作用が必要である。このサブユニットはプライマー-テンプレート接合部に結合し、PO-B 転写エレメントおよびその他の GA リッチ DNA 配列に結合する。DNA 転写制御、ならびに DNA 複製および / または修復に関与する可能性がある。一本鎖または二本鎖 DNA に結合できる。PTM: DNA 損傷時にリン酸化される。おそらく ATM または ATR による。類似性: アクチベーター 1 の大型サブユニットファミリーに属する。類似性: 1 つの BRCT ドメインを含む。サブユニット: RFC2、RFC3、RFC4、RFC5 のヘテロ四量体で、RFC1 または RAD17 と複合体を形成できる。前者は ATP 存在下で PCNA と相互作用するが、後者は ATPase 活性を有するものの PCNA によって刺激されない。組織特異性: 広範な組織に分布する。胎盤組織では検出されない。

## 研究分野

DNA 複製、ヌクレオチド除去修復、ミスマッチ修復

## 画像データ



RFC1 ポリクローナル抗体を使用したマウス肝臓、マウス腎臓細胞のウエスタン ブロット分析。二次抗体は 1:20000 に希釈されました。